

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400043		
法人名	株式会社 三笠商会		
事業所名	グループホームゆばら		
所在地	岡山県真庭市下湯原125-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様の尊厳を重視して介護に当たっている。  
 利用者様の清潔保持、環境の清掃に努め、尿臭などがなく快適に過ごして頂いている。  
 玄関、居室などに鍵をかけず、利用者様を束縛せず、外出したい時は外出できる環境を整えている。  
 既成概念にとらわれず、職員がいろいろなアイデアを出し合っ、日々の生活が楽しく過ごせるよう努力を重ねている。  
 ・市営の協力病院がすぐ近くにあり、緊急対応が迅速にできることから家族の方に安心していただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年3月10日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を共通認識し、入居者に何が必要かを常に考え感じ支援しています。  
 施設長・管理者・職員同士の関係もよく協力体制の下で入居者との馴染みの関係も出ています。入居者が「している事」「こだわっている事」「できる事」をよく見極めて常に考えや思いを共有することに努めています。また隣接した市民病院の訪問看護も導入し市民病院の医師とも協力関係にあり医療連携がしっかりとできています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝、申し送り時に4つの実践の中の一つを選び、それをその日の目標として実践している。	毎朝、職員に理念の1つを選んでもらい、それをどう実践するのか発表してもらうことによって理念の浸透を図っています。また、事業所の行動指針を職員一人ひとりから紙に書いて提出し、職員自らが決めて実践に繋げようとしています。	行動指針を定期的に見直し、目指す姿を全職員で共通認識し実践に繋げていかれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地区の行事に参加している。 (敬老会、夏、秋祭り、地区の掃除等)	施設長が事業所と同じ町内に居住しており、町内の役員を担っているため地域の夏祭りや清掃作業等、事業所も参加しています。地域の神輿の接待(巻きずしなど)を入居者と一緒に行い、事業所自体が地域の一員として交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎月1回湯原地区の担当者部会に出席し、情報交換をしている。又、それぞれの職員が地元での集会等で認知症についての講話やグループホームの紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議での意見等については、詳細に職員に報告し、改善すべきところは改善して日々の介護に努めている。	地域の代表者並びに市の担当者以外に入居者の家族も参加しています。日常的な防犯の事や地域の情報を得、また事業所の現状を説明し事業所と地域がお互い協力できることを確認しサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・4ヶ月に一度開催される真庭市グループホーム連絡会議に出席し、市からの情報提供や困難事例の相談など行っている。	毎月湯原地区担当者部会に出席して情報交換を行っています。定員の空き状況を報告して入居者への情報提供に繋がっています。市の担当者に制度上の疑問点や書類の書き方を質問するとすぐに返答が帰ってきます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的な考えはマニュアルに掲載している。日常生活の中で、疑問が生じたとき、その都度職員全員で話し合って、同じ目標に向かって介護に当たっている。	鍵を掛けない・否定的な言葉遣いをしない・否定的な対応をしない様心掛けています。積極的に研修に参加して、全職員で身体拘束しないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・基本的な考えはマニュアルに掲載している。 入浴時やおしめ交換時などに、打ち身、擦り傷を発見するとヒヤリハットで提出し、情報の共有をしている。又、言葉かけなどについても職員がお互いに気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者が施設内研修や会議時に他の職員に知らせている。又、研修があるときは参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結前に、契約、解約、重要事項について説明を行っている。 ・契約後も疑問が生じた場合、又、状況の変化があった時などその都度、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、家族の方に日頃の生活の様子をお話するとともに、ホームに対する要望をお聞きし記録に残し、プランに反映させている。	家族は面会によく来られるので職員の方から声を掛けて話をするように心掛けています。また地元の職員が多いので、事業所以外で逢った時など気軽に話ができるよう傾聴に努め、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議や申し送り時に意見や提案を聞き、その場で回答できることは回答し、検討を要する内容については、後日申し送り時、又は連絡帳によって回答している。	日々、職員一人ひとりが施設長や管理者に思いや意向をその都度伝えています。また検討事案などは会議で決定し、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・経験、資格、年齢等を給与基準とし、資格内容によって手当を付けている。又、未資格者には資格取得援助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に(年2回の賞与時)個々に面接し、又は随時悩みや相談を聞いている。また、ホーム内での研修、外部での研修への積極的参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会、真庭市グループホーム連絡会議に入会し、交流及び研修会に参加している。又、今年度は施設長が岡山市介護支援専門員協会真庭支部の役員を引き受けたり、リーダー研修に参加し、他施設からの研修もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所が決まった時点で、何度か訪問したり、ホームを見学していただくなどして信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方に安心していただけるよう、こまめに連絡を取り、支援においてわからないことや、困っていることがあれば早急に解決して、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、又は入所前の担当ケアマネから、利用者の能力、すでに受けているサービスなど聞いて、新しい生活にスムーズに慣れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の意志、人格などを尊重し、相手の立場に立って(認知症について理解をし)、介護者同士情報を共有し、ともに安心して、楽しく生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者と家族の気持ちを大切にし、家族に利用者の状況を綿密に伝えることによって、安心していただいたり、又、日常の介護において介護拒否など困ったことがあるときは家族に相談し家族の協力を得てよりよい生活ができるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が気安くホームを訪れる事ができるよう雰囲気作りに配慮している。また、ドライブなどで、利用者の思い出の場所や生活しておられた場所へ行くようにしている。	隣接する市民病院に受診に行ったときに地域の方と会うことが多く交流の場となっています。また、馴染みの方も病院に来たからと言って立ち寄ってくれます。家族・職員と地元に行きつけの理美容院に行くなど馴染みの関係継続が出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者一人一人をよく把握し、利用者同士のトラブルが生じた時などは、お互いが傷つかなないように介護者が仲裁したり、テーブルやソファの座る位置に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了するのは、病院に入院される時がほとんどで、主治医、家族、ホームのケアマネの3人で納得のいくように話し合い、契約終了後も家族の希望がある場合は病院での様子を伝えたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・言葉はもとより表情にも気をつけて、内面の変化を見落とさないように努力し、職員間で情報の共有をし、時には家族の協力を得て安心して生活ができるよう援助している。	職員は自分の得意な事を生かしたサークル活動(銭太鼓・読み聞かせ・書道・手芸など)を通して、入居者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。	入居者との関わりを一生懸命に持つ努力が窺えます。もう一歩進んで本当にその方に必要かを話し合い一人ひとりに合った支援に取り組まれる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービスを提供するに当たって、今までの生活歴や生活環境を充分理解したうえで援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の介護記録、その他のチェック表(水分量、食事量、排泄、バイタル表等)を基に個々の日常の状態を把握し、早めの体調変化や精神的変化に気付くよう職員同士のコミュニケーションを密にしている。(連絡帳、申し送り等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の申し送り時と、モニタリングの会議で、各種サービスや支援が円滑にできているか、新たなニーズが発生していないかを継続的に行っている。	入居者の目線に立ったプランを心掛け、課題について関係者と話し合い現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録、受診時の医療記録、面会時の家族の記録等の情報を共有し、個人の目標達成のために活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員一人一人柔軟な気持ちで、臨機応変に対応できるように、日々、小さな事でも見逃すことがないように、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くにコンビニができて買い物に行ったり、広場におやつを持って出かけるなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に一度定期受診を行い、緊急時の場合は深夜を問わず協力病院との連絡体制が整っている。	隣接する市民病院の訪問看護師が毎週訪問しており、医師との連携もとれています。歯科は近所の医院を受診しており、往診してもらえるように検討中です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護を取り入れている。又、医師との相談においても訪問看護師が便宜を図ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・日頃から協力病院とは信頼関係を築いているので、入院時は家族と病院とのパイプ役を果たしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の指針については、入所時、家族と利用者に説明し、体制は整っているが、病院で終末を迎えられることが多い。	看取りへの意向が無く現在まで行ったことはありません。看取りを行う為にも往診可能な協力医を検討しています。入居者の状態が悪くなったときは医師並びに看護師から今後考えられる状態について説明を受け適切な対応が出来るように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ヒヤリハットが発生した場合は、申し送り時に話し合いを行い、事故の場合は会議を開いて問題点について話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。 ・地域の消防団に施設長が所属していることから、利用者状況を提供し協力を得ている。	開所当時地元の消防団に施設を見てもらい避難経路を確認してもらっています。夜間想定訓練に地域の方の参加もあり、避難場所も第1第2と順位を決め訓練しています。	実際に災害が起きたときは地域住民の協力は不可欠です。これからも地域住民の多くの参加に努め又、消防署の協力を得て心肺蘇生法やAEDの使用方法等進めていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員の性格や生活態度がそのまま出るので、言葉に気持ちがこもっているか、利用者のことを考えているか、など職員同士お互いに気がついたら注意したり、研修を重ねている。	言葉掛けは言い方に注意をしています。他の職員の関わる姿はその職員と入居者の間にできた関係なので同じ対応をしないように職員一人ひとりが入居者一人ひとりと馴染みの関係を作る様取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の思いや希望(外食したい、美容院に行きたい、買い物に行きたい)があるときはスムーズに対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の都合を優先しないよう、職員お互いが注意しあって、利用者一人一人のペースにあった生活が送れるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎日の更衣において、介護者が勝手に決めるのではなく、利用者と一緒に話し合っその日に着たい服を選んでいる。 又、外出時にはメイクをして出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みを聞いて献立に取り入れたり、又、食べたいものを食べにお連れしている。	業者から食材を納入していますが土曜日は職員と入居者で楽しく調理をしています。近所のレストランで外食を楽しみお酒も適宜飲まれる入居者もいます。又、入れ歯を使用する事でミキサー食が食べれる様になった入居者もあり、食事を楽しむことのできる支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者の病状や咀嚼力等に合わせて食事を刻んだり、ミキサー食やおかゆを提供している。 ・毎月の体重測定、日々の食事及び水分摂取量をチェックし、個々の健康状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後の口腔ケアの習慣化、食前の嚥下体操の徹底化を図っている。 ・毎週月曜日には義歯を消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を基本とし、定期的にトイレ誘導し、個々の排泄パターンを把握して、自立へ向けて取り組んでいる。	夜間おむつをした入居者が多かったが、排泄状況を細かく観察記録し、夜間のトイレ誘導でおむつをしない入居者が増え、安眠を妨げない範囲での自立支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・できるだけ、薬に頼らず、運動や、きな粉牛乳、ヨーグルト等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日全員の入浴に対応できるように、体制を整えているが、拒否される利用者もあり、「鼻水が出るから」「風邪を引いているから」「これから帰るから」等の理由が多く、4、5日も入られない利用者もある。	入居者一人ひとりに合わせた入浴支援に努め、入浴が苦手な夜間を希望する方には夜間入浴の支援を行っています。職員と入居者が馴染みの関係にあるので入居者一人ひとりに合った支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでも好きな時に休んで頂いている。朝食時眠いと言って、寝ておられる方は時間をずらして食べていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師の指示の基に、服薬し、薬の変更があった場合は記録を取り、状態を医師に伝え、利用者が安心して過ごせるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・それぞれ個々にあった役割を見つけて、テーブル拭きや洗濯たたみなど自分の仕事として、積極的に頂いている。 ・日々のレクリエーションなど職員が工夫して提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・年間行事予定に外出やドライブを取り入れたり地域の夏祭り、秋祭り、敬老会なども取り入れて参加している。	日常的に戸外に出掛けています。入居者の行きたい場所に家族や親戚の協力を得て外出しています。初詣・花見のようにたくさん入居者が参加する外出だけでなく、少人数または一人を対象に本当に望んでいる場所への外出支援も行って行く予定だそうです。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的にはお金はホームで管理しているが、本人が所持したい希望がある時は家族の方と相談して、少額持参して介護者と一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望により、家族や友人に電話をされることはしばしばある。又、携帯電話を持っておられる利用者もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有の空間が、介護者の趣味ではなく、利用者にとって居心地の良い場所となるよう、清潔感にも気をつけている。	各ユニット(1階・2階)がお互い良い所を採り入れ居心地よい空間づくりを心掛けています。又、行事予定の掲示が入居者の興味と楽しみの一つになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールの日当たりの良い場所に長いすを置いたり、テラスで談話や簡単なレクリエーションができるように椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族の方と利用者が相談して馴染みのものや、日常生活に必要なものなど置き、居心地良く生活できるよう配置してある。	本人の必要とするものは特に規制なく持ち込んで貰っています。入居者の安全を考慮して部屋にはあまり多く物を置かないようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室、共同の場所(トイレ、洗面所など)がわかるように、又、物の手順を示す張り紙をするなどして迷いや不安を取り除けるよう配慮している。		